

学園点描

25日の全体保護者会、総会の参加ありがとうございました。80人弱の参加だったようです。

《H学園》

NO.4

R7. 5. 1

担当：校長

先日、校長室にI・KさんとK・Rさんの二人の児童が入ってきました。「校長先生の仕事って、何ですか？」——突然のI・KさんとK・Rさんの質問に、思わず「うっ」とうめき声が出てしまいました。とっさに、「子どもの安全を守ること。子どもの勉強を守ること。楽しい学校をつくること。」とメモに書いて渡しました。二人は、なんとなく納得したような、まだピンとこないような表情です。それにしても、「あなたの仕事は何ですか？」と聞かれて、37年も働いてきたのに、すぐに言葉が出てこなかった自分に、少し恥ずかしさを感じました。でも、その問いは、なぜ、自分はこの仕事をしているのかを考えるきっかけにもなりました。

子どもたちの素朴な疑問は、大人の心をあぶりだす強さがあります。

インタビューへの回答

ある日の昼休み、放送委員会の生徒が職員室を訪ねてきました。

「24日の12時45分に放送室に来てください。」と丁寧に告げられました。理由を尋ねると、こう答えてくれました。「今年新しく来られた先生方へのインタビュー放送の企画です。」事前に、インタビューの内容——①名前と担当教科、②趣味や好きなこと、③意気込み——も教えてくれました。

アドリブがあまり得意ではない私にとって、ありがたい配慮でした。放送日までは少し時間があつたので、②は、好きなマンガのことくらいかなあと思いました。

そういえば、ちょうど1年前に、突然弟から「兄貴、スキーブーツについて教えてほしい」と電話がきたことを思い出します。わたしには弟がいます。

小さい頃からマンガやイラストを描くのが好きで、運動ばかりしていたわたしとは正反対の性格です。わたしはというと、マンガやアニメは

“観る派”。一方、彼は、子どもの頃から地味で無名なマンガを買い集め、ひたすら描き続けていました。

その弟が今では、東京と大阪を行き来しながら、アニメ映画

やテレビアニメの制作に関わる仕事をしています。

「どうして急にスキーブーツ？」と尋ねると、

「今度の作品にスキーのシーンが出てくるんだけど、俺、スキーやったことないから教えてほしいんだ」とのこと。



前任校・前々任校ともにスキーが盛んな学校だったので、スキーブーツの写真を
見せたり、実物を履いたりしながら、弟に教えてあげました。

昔は、マンガというと子どものものというイメージを持つ方もいましたが、今や
多くの大人も心から楽しめる作品がたくさんあります。「人生の大切なことは、ア
ニメやマンガから学んだ」と語る人さえいます。

思えば、私の親はよく「マンガなんかで飯は食えない」と言っていました。
誰も歩いたことのない道を切り拓くには、決意と覚悟、そして、自分とは違う価値
観を受け入れる柔軟さが必要なことを彼の生き方をとおして教えてもらいました。

迎えた昼の放送。

「好きなことはなんですか？」と尋ねられたわたしは、「ものを作ることと、マン
ガやアニメを観ることです」と答えました。そしてちゃっかり、「実は弟が関わっ
たアニメ映画が、今ちょうど上映中なので、機会があれば観てみてください」と、
小さな宣伝も添えて。



休日、私は映画館のスクリーンを見つめていました。物語の終わり、エンディン
グロールには、作品に携わった多くの人たちの名前が静
かに、でも力強く流れていきます。その中に「作画監
督」として、弟の名前もありました。

好きなことを仕事にするのは、きっと楽しいことばか
りではないでしょう。それでも、「あなたはなぜこの仕
事を選んだのか」と聞かれたら、私なんかより、ずっと明確に答えられるのだらう
と思います。

このたよりのことは、弟にはもう少し秘密にしておこうと思います。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。